

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.15 2013年8月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■プレミアコンファレンシングの電話会議サービス、PC音声(VoIP)と電話音声のハイブリット会議を実現

プレミアコンファレンシング株式会社(東京都中央区、米PGIグループ)は、同社が提供しているPGIの「GlobalMeet 電話会議サービス」で、PC音声(VoIP)接続機能の追加と、全国ワンナンバーで利用できるアクセスポイントの新設を行った。(7月23日)



サービスイメージ (プレミアコンファレンシング資料)

PC音声接続機能を追加したことで、電話音声と同等レベルの音質を保ちつつ、PC音声と電話音声の両方から同じ電話会議に参加することが可能になった。

通常の電話からの会議室へのアクセスはこれまで通りだが、PC音声による会議室接続の場合は、PC・スマートフォンなどに専用のソフトウェアをインストールし、仮想電話会議室からインターネット接続をする形になる。

また、全国ワンナンバーで利用できるアクセスポイントの新設によって、大都市以外からでも長距離通話料金がかからない仕組みを実現した。

同社のサービスではこれまでも、国内のアクセスポイントは、東京03、大阪06、0120フリーダイヤル、ダイヤルアウトを提供している。加えて、海外において

は、世界主要45か国以上のローカルアクセスポイント、50か国以上にフリーダイヤルのアクセスポイントを設置している。加えて、ダイヤルアウトアクセスについては、230か国をカバーしている。

デスクトップアプリによる音声接続



電話会議コントローラ



Outlook ツールバー



アプリイメージ(プレミアコンファレンシング資料)

一方、サービスで提供されている機能の面では、Microsoft Outlook用ツールバーやデスクトップアプリ、電話会議に必要なミュート・ロック・招待・録音などの機能をPC上のツールから行うことができる電話会議コントローラを無料で提供している。電話会議コントローラは、PCだけでなく、iPhone、Mac、Android端末でも利用でき、会議参加者の誰が話をしているかがわかるアクティブトーカー機能も備えている。

PGIでは、より使いやすく便利なサービスを提供するため、今後も機能の向上に努めていくとしている。

■ロジクール、90度視野角とH.264/SVCエンコーダを備えたフルHD対応Webカメラ発売、法人向けに発売

株式会社ロジクール（東京都港区）は、90度視野角とH.264/SVCエンコーダ搭載のフルHDウェブカメラ「ロジクールウェブカムC930e」を7月26日から、法人向け製品として正規販売代理店より販売する。（7月23日）

C930eは90度視野角に対応したWebカメラ。会議室を広くカバーできるのが特徴（ワイドスクリーンモード）で、会議中にホワイトボードを使用したデモを行っても、カメラの向こうからその詳細をはっきりと認識することができる。

300万画素画像センサーを搭載し1080pHD(1920x1080)に対応。また静止画は1500万画素レベルのキャプチャーが可能。フレーム数は最大30フレーム/秒。レンズはカーツアイスレンズを採用している。プライバシーシャッターもある。

H.264/SVCエンコーダの搭載によりPCへの負担が少ないため、「Lync 2013」や「Skype」などを通じた高画質なビデオ通話が行えるという。

そのほか、画像補正機能として「RightLight2テクノロジー」や、UVC(USBビデオクラス)などに対応している。オートフォーカス(30cm~∞)に対応し、露出やゲインは自動。マイクはステレオマイク。

Windows8、Windows7、MacOS X 10.7以降のバージョンに対応。スタンドタイプはユニバーサルクリップ。本体サイズは、94mm x 71mm x 43mm。重さ162g。価格はオープンブライス。保障期間は3年。

■ポリコム社、Microsoft Lync向け360度パノラマ映像ソリューションを発表

ポリコム社（日本法人：ポリコムジャパン株式会社）は、「Microsoft Lync」向けの360度パノラマ映像ソリューション「Polycom CX5500」と「CX5100 Unified Conference Station」を発表。（米：7月8日、日本：7月25日）



Polycom CX5500とCX5100 -製品位置づけはCX5000の後継(米ポリコム社 資料)

今回発表されたCX5500とCX5100は、会議室全体をパノラマ映像で表示する360度のパノラマカメラを搭載し、1080pのHD映像、HD音声を提供するソリューション。

「Polycom CX5000」の後継に位置づけられる。CX5500とCX5100はUSBでパソコンに接続したり、最近発表された「Lync Room System」とも組み合わせ利用可能。加えて、CX5500には、SIPフォンの機能も提供され、単独でHD音声の電話をすることも可能となっている。

出荷時期については、CX5100が9月、またCX5500は第4四半期を予定している。

■ポリコム社の「Polycom VVX ビジネスメディアフォン」の全ポートフォリオがLync 2013の認定、「Lync」対応ポリコムソリューションは40にのぼる

ポリコム社（日本法人：ポリコムジャパン株式会社）は、Microsoft 2013 Worldwide Partner Conferenceにて、「Polycom VVX ビジネスメディアフォン」の全ポートフォリオがLync 2013の認定を取得したことを発表。（米：7月8日、日本：7月25日）

Polycom VVX の Lync 2013 認定は、両社のパートナーシップをさらに拡張するもので、ポリコムが提供するソリューションのうち、すでに Lync と相互運用が可能なもの、または、Lync 向けに最適化されている数は 40 にのぼる。加えて、Polycom VVX 用のソフトウェアアップグレード「Polycom UC Software v5.0」も提供される。

Polycom UC Software v5.0 は 8 月から提供開始予定（保守サービス利用者はフリーアップグレード。）

■日本 IBM、SaaS 型クラウドサービス「IBM SmarterCloud for Social Business」の情報共有機能拡張を発表

日本 IBM 株式会社（東京都中央区）は、SaaS 型クラウドサービス IBM SmarterCloud for Social Business の情報共有機能拡張を発表した。（7 月 29 日）

今回の機能拡張は端末の違いによる情報へのアクセスの差を改良し、より円滑な情報共有を可能にするためのもの。

（1）WindowsPC とクラウド間での容易なファイルアクセス：新機能「Cloud Connector」を PC にインストール・設定（「Connections ドライブ」を追加）することで、PC とクラウドという異なる環境を意識することなく、Windows エクスプローラから、ファイルの参照・保存・コピー・移動などの操作が可能になる。また、「Microsoft Office」と「OpenOffice」のファイル操作においても PC 内とクラウド上のファイルを同様に扱うことができる。

（2）モバイルアプリから活用できる機能の拡張：スマートフォン向け公式モバイルアプリ経由で、ファイル共有・コミュニティ・ブックマークの機能を利用できる。スマートフォンからもクラウド上のファイルを容易に閲覧・管理できる。

（3）PC 向けチャットクライアントの提供：チャット機能専用のユーザ向けクライアントソフトウェアを無

償で提供。さまざまな文字効果や絵文字などの画像を含むチャットが可能で、PC 上のファイルやキャプチャー画面をユーザ間で直接送受信できる。

（4）既存機能における拡張：コミュニティに、画像や動画専用の「メディア・ギャラリー」機能を追加。コミュニティ上にアップロードされている画像や動画をサムネイルで一覧。また、Web 会議機能において、従来の画面の共有に加え、リアルタイムでの音声会議をサポートする。

IBM SmarterCloud for Social Business は、月額 1,199 円（1 ユーザあたり税込価格）から必要な機能に合わせて選べる複数の利用プランを用意している。ちなみに、1,199 円のサービスは、「IBM SmarterCloud Engage Standard」のメール・カレンダーを除く基本機能を全て使えるプラン。また、60 日間無償で IBM SmarterCloud for Social Business を利用できる試用版を提供している。サービス内容や試用版についての詳細は同社へ確認要。

ビジネス動向-国内

■BT ジャパン、BT ショーケースに「Polycom OTX」を導入、戦略的パートナーシップを強化



ポリコムジャパンの代表執行役社長ローン フェゼック (Lorne Fetzek) が、東京の BT カスタマー イノベーション ショーケースにて来場者に説明

（ポリコムジャパン資料）

ポリコムジャパン株式会社（東京都千代田区）の発表によると、英 BT 社が東京に設置したカスタマー イノベ

ーション ショーケースに、ポリコム社のイマーシブビデオソリューション「Polycom Open Telepresence Experience (OTX)を採用した。(7月23日)

これは BT のアジア太平洋地区カスタマーデモルームに設置される初のポリコムイマーシブテレプレゼンスソリューションになるという。また、両社間の戦略的パートナーシップが強化され、BT カスタマーイノベーションショーケースでのデモンストレーションの幅が広がることになる。

Polycom OTX は、最大6人のグループに対応するイマーシブソリューション。「Polycom HDX 7000」ビデオ会議システムや、スマートフォンやタブレットを使用してビデオ会議が行える「Polycom RealPresence Mobile」とともに、この BT ショーケースの来場者にデモンストレーションが実施できるようになった。

BT ショーケースでのデモンストレーションおよびグローバルコラボレーションについては、BT ジャパン株式会社にお問い合わせ要。

製品・サービス動向-海外

■Tely Labs 社、既存テレビ会議とも通話ができる、法人向け低コストテレビ会議システムを発表

Tely Labs 社(米、カリフォルニア州)は、法人向けの低コストテレビ会議システム「telyHD Pro」を発表。(7月10日)

telyHD Pro はあらゆる企業規模のユーザに対応しており、コストパフォーマンスと操作の簡単さ、さらには既存テレビ会議システムとの相互接続性などを兼ね備えている。価格は649ドル。

相互接続の点については、SIP を通してポリコムやシスコ、ライフサイズのシステムとのテレビ会議が可能となっている。

また MCU などインフラ装置の導入をためらっている企業向けには同社のクラウドサービス「telyCloud」を提供する。

一方、テレプレゼンスからテレビ会議システム、WebRTC などあらゆる端末/クライアントとの接続を行いたいと考えている企業に対しては、Blue Jeans Network 社のクラウドサービスを提供する。

1,000ドルを下回る Tely Labs 社の提供する低コストテレビ会議システムは、Wainhouse Research 社によると“Huddle Systems”というセグメントとして認識されているという。Tely Lab 社によるとこの価格帯のニーズはこれまで満たされていなかったニーズ (unmet need) で、同社が低コスト製品で市場のニーズに応えていきたいとしている。

■iRobot 社、米シスコシステムズ社と共同で、法人向けのビデオコラボレーションロボットを発表

米 iRobot 社は、米シスコシステムズ社と共同で、法人向けのビデオコラボレーションロボット「Ava 500」を発表した。(6月10日)

iRobot 社(アイロボット社)は、ロボット清掃機「ルンバ」を提供する企業。今回の発表は両社間における共同マーケティング提携によるもので、iRobot 社はシスコシステムズ社と緊密な協力関係を通して Ava 500 が開発された。

Ava 500 は、iRobot 社の「Ava モバイルロボテックプラットフォーム」とシスコシステムズのビデオ会議システム「Cisco TelePresence EX60」とを組み合わせることで実現。EX60 と 21.5 インチの HD モニターを搭載し自動ナビゲートで走行できるシステム。

Ava 500 はオフィスや製造工場、実験室などでの利用を想定している。リモートからユーザが Ava 500 を通して“存在”し、動き回ることが可能になる。また、トレーニングや遠隔プレゼンテーションなどでの活用も想定している。

システムの仕組みについて。リモートから Ava 500 を操作するユーザは iPad のインターフェイスを使い、“行きたいところ (destination)”をマップ上からタップす

ることで選択。そうすると充電ステーション (charging station) で待機している Ava 500 のうちで自動走行可能なロボットがその指定された目的場所へ向かう。そしてその目的場所で必要なミーティングが終わればまた充電ステーションに戻り待機状態に入るようになっている。

なお、目的場所までの走行途中、搭載している 21.5 インチ画面に自分の顔を表示させたい場合はパブリックモード。表示させたくない場合は、プライベートモードに設定することが出来る。

加えて、走行途中は、無線 LAN で操作を行うようになっている。その際には、「Cisco Aironet 1600 Series wireless access points」を使用する。

販売は、シスコ販売代理店の中で指定された特定の代理店より 2014 年の初めごろから販売される予定。

iRobot 社 (リモート プレゼンス ビジネス ユニット) にとっては、新しい市場や利用用途の拡大につながると期待感を示している。一方、シスコにとっても、テレプレゼンスの活用が広がるとコメントを出している。

今回発表された Ava 500 は、6 月に米フロリダで開催された Infocomm 2013 会場にて紹介されている。

■Aver Information 社、1,000 ドルを切る低コスト HD テレビ会議システム「EVC100」を発表

Aver Information 社 (台湾) は、1,000 ドルを切る低コスト HD テレビ会議システム EVC100 を販売開始。(北米: 7 月 23 日)

EVC100 は、SMB から大企業まであらゆる規模の企業ニーズに最適な、720p に対応した H.323/SIP テレビ会議システム。資料共有は H239 に対応。カメラは、広視野角 88 度にパンチルトズーム (4 倍デジタルズーム) 機能がある。また、同梱のアレーマイクは全二重エコーキャンセルに対応している。そのほか HDMI 端子も搭載している。3 年保障付。

同社では、Blue Jeans Network 社や Vidtel 社とも提

携しており、既存のテレビ会議システムのほか、Skype、Google、WebRTC などの相互接続サービスも提供している。

*関連記事: 定期レポート 2013 年 6 月 15 日号

ビジネス動向-海外

■NTTコミュニケーションズ、フランスの会議系サービス事業者 Arkadin 社の株式取得を発表

NTTコミュニケーションズ株式会社 (東京都千代田区)、Arkadin International 社 (フランス、以下アルカディン)、AXA Private Equity 社 (フランス) の 3 社は、NTTコミュニケーションズが、Arkadin 社の発行済み株式 91.2% の取得について発表した。(8 月 5 日)

NTTコミュニケーションズは、2013 年 8 月 5 日に AXA Private Equity 社を含む主要株主と基本合意に達し、確定的申込み (Binding Offer) を行った。これを受け、アルカディン社 (2001 年設立、会議系サービス専業として世界第 3 位のシェア、37,000 社の顧客) による労働者評議会への通知後に最終的な株式買取契約の締結を予定している。

アルカディン社の 100% 子会社であるアルカディン・ジャパン株式会社 (東京都港区) の 8 月 6 日発表資料によると、今回の株式取得 (年内を目途に) による、アルカディン社の経営陣に変更はなく、今後も少数株主として経営の指揮を執るといふ。また、アルカディン・ジャパンを含めた、世界 32 か国のアルカディン拠点はそのままに、サービス内容や人員体制も変更なく、アルカディンのブランド名で各種会議サービスを継続して提供していくとしている。なお、今後の両社のサービス連携や強化、世界展開の詳細については現在協議中となっている。

NTTコミュニケーションズは、「Global Cloud Vision」のもとグローバルトータル ICT アウトソーシングサービスを推進しており、Arcestar ブランドにおいて、ユニファイドコミュニケーション、音声会議、Web 会議、ビデオ会議の各サービスを展開している。同社としては今回の株

式取得により、アルカディン社が保有するグローバルな顧客対応力とサービス提供基盤などを活用し、会議系サービスのグローバル展開を加速する狙いがある。

導入・利用事例-国内

■シーエーシー、ワークスタイル変革や BCB 対策の一環でテレビ会議システムを導入、自社の活用効果をショーケースにして顧客への提案も

独立系システムインテグレータである株式会社シーエーシー（東京都中央区）では、拠点間や部署内のコミュニケーションを円滑にする目的で、Web 会議システムを導入し利用してきた。しかし、面接や会議など対面同様の品質が必要なケースでは、「映像や音声の品質に問題があり、コミュニケーションが難しい。」という利用者の指摘が社内からあがっていた。加えて、部署単位で別メーカーの Web 会議を導入したため、連携面にも支障があった。

こういったことから、同社では、先述のクオリティやレスポンスの問題を解決したり、また、ワークスタイルの変革や BCP 対策を実現するための、新しいインフラ構築が必要になった。

そこで、2011 年にコミュニケーションインフラの構築と活用をテーマに社内委員会を発足し、新しいインフラの要件について検討した。

検討の結果、(1) 国内外を問わず、クオリティ・レスポンスなどが実用に耐えられること、(2) 資料を大画面に映した際も、その資料の内容の確認ができること、(3) 社内に展開しているクライアント PC から利用できること、(4) iOS や Android OS を搭載したモバイル端末から利用できること、といった要件を設定し、それらを満たすソリューションについて情報収集を行った。

いくつかのソリューションを検討していた際に、VTV ジャパンが運営する MCU 専門サイト「MCU Info」にた

どり着く。MCU Info は主要メーカーの製品情報を提供しており、情報量が豊富であり、コミュニケーションインフラに課題を持つユーザが利用している。

その MCU Info の中で、シーエーシーは、アバイアの「SCOPIA ソリューション」に着目した。しかしながら、スペックだけでは、“実用に耐えうる”インフラなのか確認することができないため、VTV ジャパンに問い合わせ、実機を使った詳細な検証を実施することになった。

検証においては、国内・海外拠点接続テストなど可能な限り、シーエーシーにとって実際の利用環境を VTV ジャパンとして提供した。たとえば、「スマートフォンを使った場合には移動しながら使えるのか」「海外と接続した場合のクオリティはどの程度か」など何度も体感・納得するまでテストを行ったという。

シーエーシーによると、要件をほぼ満たすソリューションは競合他社からも提供されているものの、(1) Android OS など市場ニーズにこたえたスピーディーな対応を行っている、(2) 今後の大きな機能追加などロードマップを公開した、(3) サポート面やコスト面など非常に導入しやすく安心して利用できる、などの点から SCOPIA ソリューションに決定した。加えて、シーエーシーのスピード感に遅れないように VTV ジャパンとしても迅速に対応を行ったこともよかったようだ。

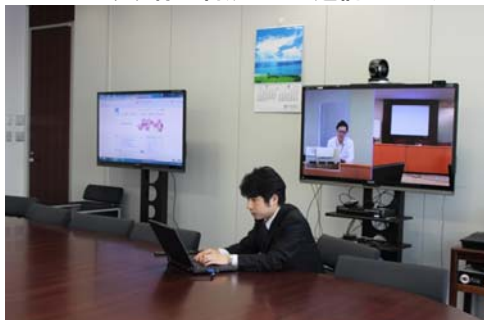


本社役員会議室-海外駐在役員との会議に利用 (VTV ジャパン 資料)

(次ページへ続く)



役員会議室の映像は会議参加者とプレゼンターの2つのカメラ映像が合成されて送信される(VTV ジャパン 資料)



役員も利用する打合せルーム-資料共有を伴う密なミーティングに利用(VTV ジャパン 資料)

SCOPIA ソリューションの社内導入にあたっては、シーエーシーでは3つのステップで展開を行った。まず第1ステップとしては、BCP 対策拠点と本社間にテレビ会議端末を導入。ただし、この段階では、役員のみコミュニケーションインフラを公開した。

第2ステップである2012年からは、一般社員にこの新しいコミュニケーションインフラを解放し、既存のWeb会議システムから、順次置き換えていった。また並行して、社内外のコミュニケーションを円滑に行えるような環境も整えた。

そして、新たなインフラ導入の仕上げとしての最後の第3ステップでは、役員会議室にテレビ会議システムを設置。この役員会議室には、VTV ジャパンの提案により、遠隔地からでもスムーズにコミュニケーションを行えるように機能を作りこんだりもしている。

このように3つのステップを経て、SCOPIA ソリューションが、シーエーシーの社内で展開され、全社的なコミュニケーションインフラとして実稼働するようになった。

今後としては、仮想デスクトップやマイクロソフト社「Microsoft Lync」を利用したコミュニケーションインフラと連携させることを予定している。

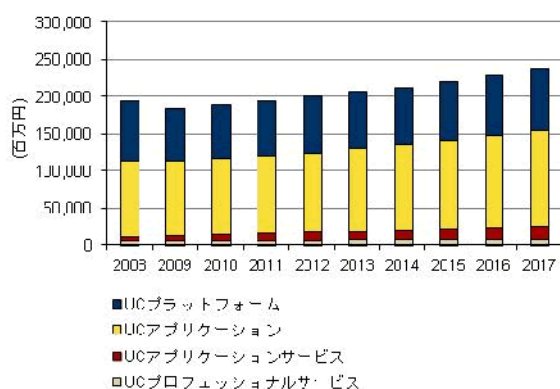
また一方で、システムインテグレータとしての立場から、自社をモデルケースとしたソリューションの構築によって蓄積されたノウハウを、シーエーシーの顧客に対して提案していく計画もある。さらには、Lync やシステムインテグレーションのノウハウをもつシーエーシーと、SCOPIA ソリューションを販売している VTV ジャパンと協業し、シナジー効果を発揮しながらビジネスでの連携も強化していく考えだ。

株式会社シーエーシー <http://www.cac.co.jp/>

市場動向-国内

■IDC Japan、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場予測を発表

IT 専門調査会社である IDC Japan 株式会社（東京都千代田区）は、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション(UC&C)市場について2012年の分析と2013年から2017年の予測を発表した。(6月10日)



国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場 セグメント別売上額予測：2008年～2017年(IDC Japan 資料)

2012年の市場規模は、前年比3.8%増の2,008億9,400万円。2008年から2012年の直近5年間で初めて2,000億円を超えた市場規模となった。企業の音声インフラリプレイス需要が活発に推移したこと、IPコンタクトセン

ターシステム市場が堅調に推移したことなどによって通年で堅調な成長を維持した結果と IDC Japan では分析している。

一方、2013年の成長予測については、災害時事業継続対策、企業でのスマートモバイルデバイス利用、クラウドによるUC&C機能提供、ソーシャルネットワーキング技術のビジネス活用などを IDC Japan では市場促進要因と見ており、これらの要因を考慮し、2013年通年では前年比成長率3.3%となると予測している。

さらに、2013年以降については、企業のワークスタイル変化の要求による企業モバイルソリューション/ビデオコラボレーション/ソーシャルビジネスなどが新たな市場けん引要因となり市場を後押しし、結果、2012年から2017年の年間平均成長率（CAGR）は3.5%で市場は拡大、さらに2017年には2,381億3,700万円規模に達すると予測している。

今回の発表は、IDCレポート「国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場 2012年の分析と2013年～2017年の予測（J13380103）」に詳細が報告されている。本レポートの詳細・購入等については IDC Japan に問い合わせ要。

セミナー・展示会情報

<国内>

■会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程：8月21日（水）、28日（水）

※全ての日程で13:30-14:30、15:30-16:30の2回開催

※9月・10月の予定もあり。

会場：NEC 情報システムズ 本社（東京都港区）

主催：日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込：

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

■Polycom Day - Microsoft Lync 連携 - マイクロソフト社とポリコムがご紹介いたします！

日時：8月23日（金）15:00-17:30（開場：14:45）

会場：ポリコムジャパン セミナールーム（東京都千代田区）

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：

<http://www.polycom.co.jp/company/events/index.html>

* 日本マイクロソフトとポリコムジャパンによる講演とデモ。

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は、情報が入り次第、随時掲載しています。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2012年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

Twitter、Facebook、dte-forum

ツイッターとフェイスブック、dte-forumを通して遠隔会議関連の情報を配信しています。よろしければご覧ください。

定期レポートでは各社からのプレスリリースあるいは取材をベースに作成されていますが、dte-forum とフェイスブックページでは、橋本がピックアップした、インターネットで閲覧できるさまざまな遠隔会議およびUC関連の情報（テキスト、写真、動画、音声）を皆さんとシェアしています。Twitterでは各社からのリリース及びメディアの記事の見出しなどが中心です。

>dte-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

>Twitter

－日本語版：<https://twitter.com/cnarjapan>

－英語版：<https://twitter.com/cnarjp>

>Facebook

－「遠隔会議システム & ユニファイドコミュニケーション市場トレンドワッチ」

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

－「橋本啓介」個人のページ

<https://www.facebook.com/keishashimoto>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

前号でパソコンが壊れたとお伝えしましたが、現在は新しいパソコンで問題なく業務を行っております。何人かの方から大丈夫ですかのご連絡をいただきありがたく存じます。業務継続やデータバックアップなどについて改めてリスク管理への意識が高まりました。クラウドの有効性についても実感しているところです。

次号もよろしく願い致します。橋本啓介